

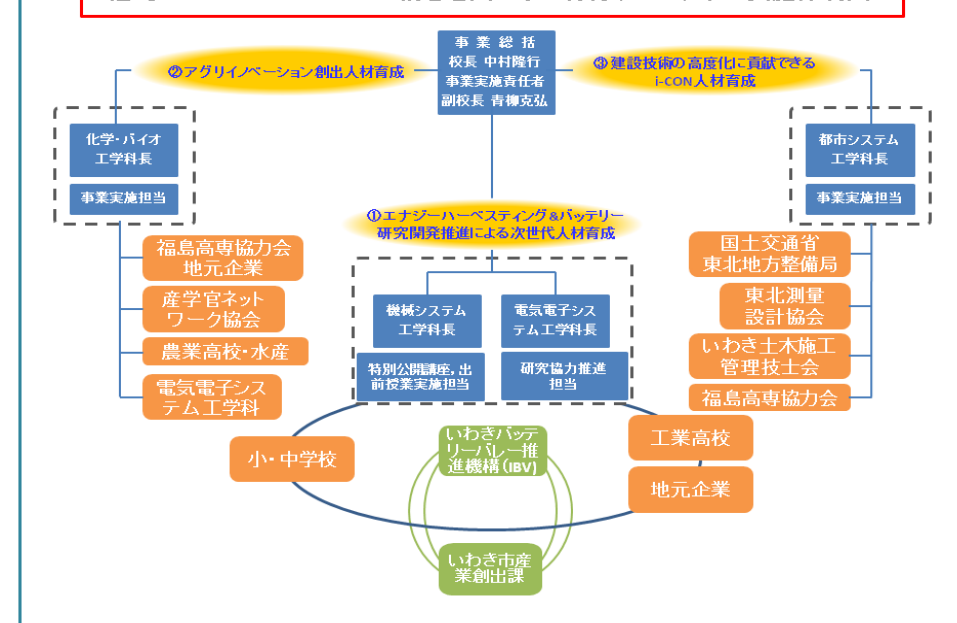
【取組の目的、内容】

福島イノベーション・コースト構想の中でも再生可能エネルギーや次世代エネルギー技術の積極導入、先端技術を活用した農林水産業の再生、インフラ整備を支える人材を育成することによって地域に貢献することを目的としている。具体的には①エネルギーハーベスティング&バッテリー研究開発推進による次世代人材育成、②アグリイノベーション創出人材育成、③建設技術の高度化に貢献できるi-Construction(i-CON)人材育成を行う。

【実施体制】

【工程表】

福島イノベーション・コースト構想を支える人材育成プログラム実施体制図



	H29年7月～	H29年10月～	H30年4月～	H30年10月～
プログラム共通	・本プログラム運営委員会の立ち上げ	・本校ホームページ等での情報公開 ・フォーラム(中間報告会)の開催・3月	・中間報告会の結果を踏まえたプログラムの進捗状況の検証・推進	・リーフレットの作成と頒布 ・フォーラム(最終報告会)の開催・3月
①エネルギーハーベスティング&バッテリー研究開発推進による次世代人材育成	・高専教員による運営会議 ・連携機関とのキックオフミーティング ・出前授業の企画と広報	・研究技術交流会(高専教員と連携企業) ・環境発電に関する出前授業の開催(地元の小・中学校、工業高校と連携して)	・「小型モビリティ技術者育成セミナー」開催	・成果外部発表(日本機械学会、電気学会、高専フォーラム等)
②アグリイノベーション創出人材育成	・アグリ系卒業研究の立ち上げ	・植物工場、食品・バイオマス関連産業の見学・講演会の実施	・アグリ系ミニ研究の実施	・第4期に向けたアグリ系学生実験のテーマ、教材研究
③建設技術の高度化に貢献できるi-CON人材育成	・i-CONに関する講演会の実施、現場見学会の実施	・新設科目の授業開始、学生への特別授業実施	・i-CONに関する講演会の実施、現場見学会の実施	・i-CONに関する実習の実施

【成果指標】

- 地元就職率を29%以上(平成30年度末)に向上: 25%(平成28年度時点)
- 本事業に関連する卒業研究を行った学生の割合を20%以上(平成30年度末)に向上: 13%(平成26～28年度の3か年の平均値)
- 本事業に関連する教員の研究発表(著書、論文、口頭発表等)件数を25件以上(平成30年度末)に向上: 16件(平成26～28年度の3か年の平均値)

【第4期中期目標期間への展開(見込み)】

- 本プログラムを実施しながら培ったノウハウをカリキュラムに展開する。具体的にはアクティブラーニングやPBL教育の手法を用いた新設科目の開設及び既存科目中での展開を目指す。
- 更なる事業のPRに努め、入学試験倍率を1.4倍程度(平成30年度末)に向上: 1.2倍(平成28年度時点)